

令和6年度 施策評価シート

施策の名称	Ⅱ-1-(1) 結婚への支援	幹事 部局	健康福祉部
施策の目的	結婚や家庭についての若い世代の理解と関心を高めるとともに、多様な出会いの場を増やすことで結婚を望む男女の希望をかなえます。		
施策の現状に対する評価	<p><u>①(市町村における結婚支援への取組の強化)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの取組により市町村における出会いの場の創出等が進んだ一方、単独市町村の取組では対象地域が限定される等により、特に女性の参加者が少ないといった課題がある。 <p><u>②(相談・マッチング機能の充実)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 全県の婚姻数は年々減少している中、しまね縁結びサポートセンターが関与した令和5年度の婚姻数については、前年度から15組減少し、54組となった。 「はぴこ」による引き合わせ件数は、コロナ禍により減少していたが、令和4年度以降、増加に転じている。「しまこ」の会員数は、令和4年度からの自宅閲覧機能の追加のほか、令和3年度からの登録料減額キャンペーンにより、会員数が増加し、特に女性会員の割合が増加した。 一方で、「はぴこ」や「しまこ」は、結婚を希望する独身者の選択肢として十分に認知されているとは言えず、特に女性会員の更なる増加に向けての広報が課題となっている。 <p><u>③(啓発活動・情報発信の充実)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生から大学生までを対象として、命の大切さや親子の絆を学ぶことや、結婚・妊娠・出産・子育て・キャリアデザインなど、自らの将来について考えることを目的に開催した講座については、「親への感謝」、「正しい性知識や、自らの将来生活を考えることの大切さ」などの意見が多数寄せられる等、事業の趣旨が浸透している。 若手の社会人には、将来の結婚や子育て等のライフデザインを考える機会が少ない。 結婚の希望はあるものの、婚活をしている割合は約2割にとどまっている。 <p><u>(前年度の評価後に見直した点)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村の結婚支援事業の広域化を図るため、近隣市町村との連携強化を目的とした圏域ブロック会議の開催や、複数市町村で広域イベントを実施する場合の補助を拡充する市町村結婚支援強化交付金の見直しを行った。 		
今後の取組の方向性	<p><u>①(市町村における結婚支援への取組の強化)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 参加しやすいイベントとなるよう、市町村結婚支援強化交付金を通じた広域化を推進するとともに、結婚コンシェルジュ事業を通じて市町村を訪問し、課題聴取や助言を行うなど、よりきめ細かなフォローアップを実施し、取組を支援する。 市町村訪問や担当者会議などを通じ、市町村と縁結びサポートセンターの連携や、市町村間の情報交換などの連携強化を進める。 <p><u>②(相談・マッチング機能の充実)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「はぴこ」については、出会いイベントへ自ら参画してPRするとともに、県や縁結びサポートセンターの広報媒体を通じて活動を紹介する等により、認知度を高めていく。 「しまこ」については、若い世代に有効なSNS広報を強化し、自宅閲覧機能により利便性が向上した点を積極的にPRするとともに、登録料減額キャンペーンを継続し、新規会員、特に女性会員の更なる増加を図り、会員全体のマッチングを促進する。 <p><u>③(啓発活動・情報発信の充実)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の頃から結婚・妊娠・出産・子育てに関する必要な情報の提供に加え、社会人に対して結婚や子育てに必要な資金面のセミナーを開催するとともに、そこから出会いの場の創出や、「はぴこ」「しまこ」などのお相手探しにつながるよう、一体的な事業スキームを構築する。 		

事務事業の一覧

施策の名称		Ⅱ-1-(1) 結婚への支援				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	結婚支援事業	結婚を希望する独身者	結婚を希望する独身者の出会いの機会を増やすなど、結婚の可能性を高める。	132,039	198,994	子ども・子育て支援課
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

子ども・子育て支援課

事務事業の名称		結婚支援事業			
目的	誰(何)を対象として	結婚を希望する独身者	事業費 (千円)	令和5年度の実績額	令和6年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	結婚を希望する独身者の出会いの機会を増やすなど、結婚の可能性を高める		132,039	198,994
			うち一般財源 (千円)	57,380	69,955
令和6年度の取組内容		・結婚支援コンシェルジュ(民間委託)により、市町村や縁結びサポート企業へのきめ細やかなフォローアップを行うほか、社会人を対象とした結婚機運の醸成、広域的な出会いの場の創出等を一体的に実施 ・しまね縁結びサポートセンターを通じ、縁結びボランティア「はびこ」の活動支援、しまねコンピューターマッチング「しまこ」の運用及び利用促進に向けた登録料減額措置の継続 ・県又は市町村が実施する出会い創出イベントの参加者に「はびこ」「しまこ」を周知し、お引き合わせ支援へ接続 ・定住施策と連携した県外在住者向け出会い創出イベントの実施			
令和5年度に行った評価を踏まえて見直した点		・参加しやすく、また集客も見込める広域的な出会い創出イベントを市町村でも実施できるよう、近隣市町村の連携強化を目的とした圏域ブロック会議をスタートさせたことや、複数市町村で実施する広域イベントの財政的支援が受けやすいよう県交付金要綱の見直し			
1	上位の施策	Ⅱ-1-(1) 結婚への支援	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅳ-3-(2) 安心して家庭や仕事に取り組むことができる環境づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	しまね縁結びサポートセンターを通じた婚姻数(R2からの累計)【当該年度4月～3月】	目標値		75.0	150.0	225.0	300.0	375.0	組	累計値
		実績値	(単年度78)	75.0	157.0	226.0	280.0			
		達成率	—	100.0	104.7	100.5	93.4	—	%	
2	結婚を希望する「はびこ」の利用申込者及び「しまこ」の会員の人数【当該年度3月時点】	目標値		1,800.0	2,000.0	2,050.0	2,100.0	2,150.0	人	累計値
		実績値	1,873.0	1,904.0	1,860.0	1,995.0	1,993.0			
		達成率	—	105.8	93.0	97.4	95.0	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・県内婚姻件数の推移 R2年:2,398組 R3年:2,337組 R4年:2,167組 R5年:2,095組 ・「はびこ」によるお引き合わせ件数 R2年度:1,532件 R3年度:1,316件 R4年度:1,435件 R5年度:1,590件 ・「はびこ」による交際件数 R2年度:403件 R3年度:374件 R4年度:429件 R5年度:402件 ・「しまこ」会員数 R2年度末:527人 R3年度末:603人 R4年度末:732人 R5年度末:749人 ・「しまこ」によるお引き合わせ件数 R2年度:204組 R3年度:327組 R4年度:402組 R5年度:340組 ・「しまこ」による交際件数 R2年度:96組 R3年度:134組 R4年度:157組 R5年度:129組								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・「はびこ」によるお引き合わせ及び交際件数は、コロナ禍によりR3年度までは減少したが、R4年度以降は回復傾向に転じている。 ・「はびこ」による成婚人数は、毎年度100人程度で推移し、R5年度には累計1,000人を達成した。 ・「しまこ」会員数は、R3年度からの登録料減額キャンペーンにより増加し、女性会員が占める割合も上昇している。 ・「しまこ」によるお引き合わせ件数及び交際件数は、会員数の増加に併せて増加傾向にある。 ・自己肯定感を高め、結婚や婚活に前向きになってもらえる結婚機運醸成イベントをR5年度に初めて開催したところ、参加者の約6割が前向きになったと回答している。
課題分析	① 課題	ア)「はびこ」や「しまこ」の認知度が低い(R5結婚意識調査) イ)「はびこ」相談登録者、「しまこ」会員とも、女性の割合が低い ウ)市町村事業の広域化を狙った、複数市町村が連携した広域イベントへの県交付金利用実績が少ない エ)出会いイベント等の参加者が少ない(特に女性) オ)結婚希望のある独身者の約半数が、未婚理由を「相手がいらない、めぐり合わない」としているが、婚活をしている割合は約2割にとどまっている
	② 原因	ア)結婚を希望する独身者へ県(縁サポ)の取組内容が十分に周知できていない イ)個人情報(写真など)の取扱などに対する不安や、若い世代の県外転出が多い ウ)市町村間の連携が十分に図られていない エ)婚活に対する恥ずかしさ、顔見知り会う可能性など、結婚希望はあるものの、イベント参加に対して消極的な人が多い オ)「めんどうくさい」「自信がない」を理由として婚活をしていない割合が高い
	③ 方向性	ア)県の重点広報の活用やSNSでの情報発信強化、また「はびこ」自らがイベント参加者にPRする機会を設ける。 イ)「しまこ」の登録料減額、自宅閲覧機能など、誰でも利用しやすい結婚支援サービスについて、女性をターゲットにしたSNS広告を強化する。また、定住施策と連携した移住促進も目的として、首都圏等における出会いイベントを開催する。 ウ)市町村担当者のスキルアップ研修のほか、近隣市町村を集めた圏域ブロック会議を開催する。 エ)参加に対する不安を軽減するため、事業の広域化と参加者年齢を区分したイベントを開催する。 オ)婚活に向けた機運醸成を図り、そこから出会いの場の創出や、「はびこ」「しまこ」などのお引き合わせ支援へつなげるなど、一体的な結婚支援事業スキームを構築する。

